



報道関係者各位

開館から1か月でももなく来館者数 20 万人 文化・子育て複合施設「おにクル」

茨木市の文化・子育て複合施設「おにクル」の来館者が、令和5年11月26日の開館から1か月で19万人を超え、年末には20万人に達する見込みです。

おにクルでは、開館日に想定を大きく上回る15,000人の来館があり、翌日以降も図書館「おにクルぶっくぱーく」や屋内子ども広場「もっくる」を中心に多くの人で賑わっています。休日には約1万人、平日にも4～5千人の来館者が続いており、当初に見込んでいた開館後1年間の来館者数50万人を大きく超えるペースとなっています。

茨木市ではおにクルを、共創の中心地であり実験場として位置付けており、開館日には「0歳から100歳まで100人でテープカット」、開館後も、障害のあるなしに関係なく、個性あふれる作品が集結した「おにも見にクルアート展」や、各フロアにまたがったハンドメイドマルシェ「popup market in おにクル」など、さまざまな企画が途切れなく開催されています。

なお、年内は12月28日まで開館し、年末年始は12月29日から1月3日は休館。

■11月26日(日)～12月25日(月)までの累計来場者数

190,094人

■担当者コメント（共創推進課長）

今後は、ホールや会議室だけでなく、エントランスやホワイエといったオープンスペースも使って、これまでの公共施設には無いような、実験的な企画も市民の皆様と一緒に実現していきたいと思っています。



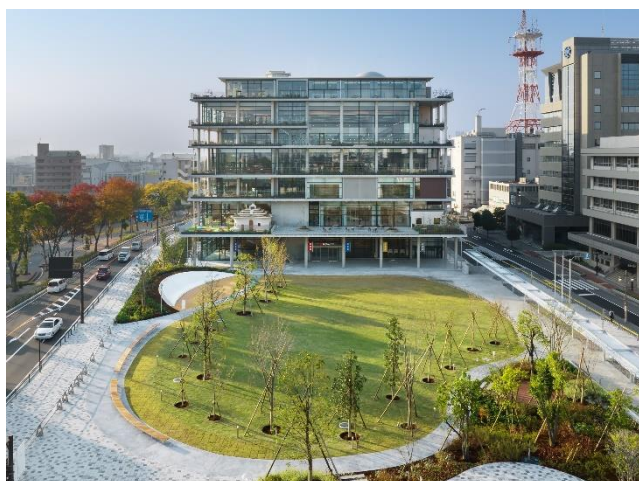
次なる
茨木へ。
茨木には、次がある。

【本件に関する問合せ先】

市民文化部共創推進課長

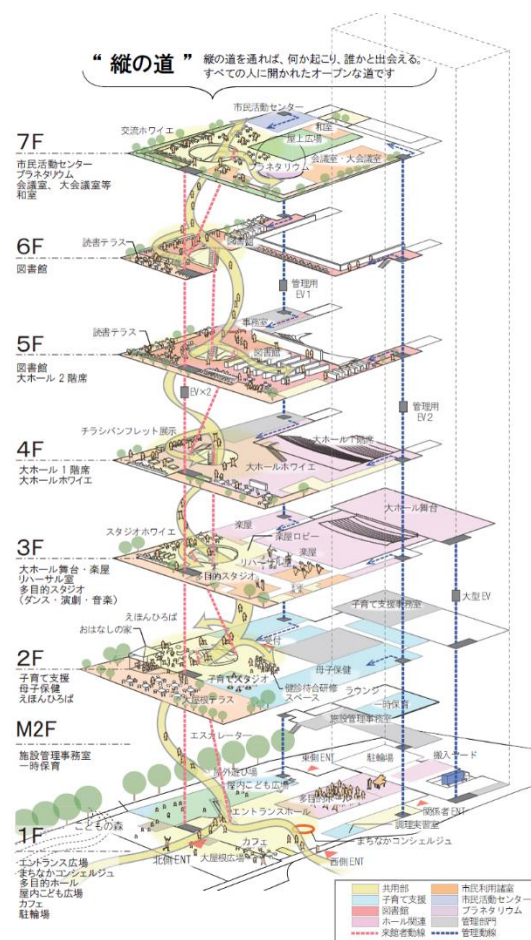
電話：072-631-0277

【参考】文化・子育て複合施設「おにクル」の概要



おにクル外観

- 茨木市役所前の市民会館跡地エリアに令和5年11月26日に開館した新施設・広場。
- ホールや図書館、子育て支援、プラネタリウム、市民活動センター、芝生広場など、様々な機能を備えた複合施設。
- 公募と市民投票を経て決定した名称「おにクル」は、当時6歳の子どもが命名。まちなさまざまな場所で目にする鬼のキャラクター「いばらき童子」を見て、「怖い鬼さんも楽しそうで来なくなっちゃうところ」という意味を込めたといいます。
- 伊東豊雄建築設計事務所が設計を手掛けており、7階建ての各フロアを貫く吹き抜け空間「縦の道」が特徴的な建物。
- 施設の設計コンセプトは、「日々何かが起こり、誰かと出会う」。「縦の道」によってそれぞれの機能が混ざり合い、日々いろんなことがいろんな場所で起きていることが何となく五感で感じられる、誰もが過ごしやすく、訪れたいくなる「立体的な公園」のような場をめざしています。
- 平成27年12月の元市民会館の閉館以降、市民の皆様と対話を通じて導かれた市民会館跡地エリア活用のキーコンセプトは『育てる広場』。市は市民が「使いたくなる場」を提供し、使い方や活動等は市民自身で作り上げていく考え方のもと、様々な取組みを積み上げてきました。
- 令和5年11月26日の開館記念イベント「つぎのイロドリ」では、1日を通じておにクル館内及び前面の芝生広場を使って、おにクルを見ていただく、知っていただくための催しを多数実施。オープニングセレモニーや芝生広場でのプログラムでは市民によるオープニングイベント実行委員会が考えた企画を実現しました。



“縦の道”は、回遊するように7層のフロアをつなぎ、人に出会いをもたらします